

移調と伴奏法

益 子 州出男[†]

はじめに

子供たちは「歌う」ことが大好きである。子供たちが楽しく歌う姿を見るのは微笑ましいものである。

しかし、成長過程の身体の子供たちは、声帯もまだ未発達で音域も狭い。無理な音域を歌うことは声帯に負担を掛ける事になる。特に高い音を無理に出そうとして怒鳴ってしまう男児も多くみられる。子供たちが楽しく歌うためには音域が重要である。そこで歌い易くする為に移調が必要になる。市販されている楽譜によっては移調されている曲もあるが、弾きやすいようにハ長調になっていることがある。それでは目の前にいる子供たちの成長にあった音域とは言えないので、自分で移調を出来るようにしなければならない。

又、「この曲は子供たちに歌わせたいのだが、旋律しか書いてないし、自分では伴奏作り出来ないので辞めておこう。」では困る。そうならないように、伴奏の付け方、基本的な和声学、前奏の作り方を身に付けなければならない。その方法を音楽の初心者にも作れるように易しい例を挙げながら述べて行く。

[†]白鷗大学教育学部 兼任講師

移調

移調とは「調」を「移す」ことである。それには主音（調の始まりの音）の位置や調号（ト音記号やヘ音記号の隣に付いているシャープやフラット）を知らねばいけない。

楽典の本は例えば二長調は主音がレからの音階で調号はファとドに付くと載っている。

調号と主音を共に全調覚えるのが大変で、「楽譜をみても、この調号が何調で、どの音から始まるか分からない。」と覚えないうまましている人も多い。

そこで覚え方のアプローチを変えてみる。

（今回は幼児曲に多く用いられてる長調の場合で述べていく。）

（１）主音から調号を覚える。

音階は二度の順次進行で出来ている。

主音から長２度・長２度・短２度・長２度・長２度・長２度・短２度となる。これはいかなる調でも変わる事はない。この法則に従えばどの音を主音しても、どこに＃が、又♭が付くかが分かるのである。

ドから始まるハ長調は次の様に法則通りになるので調号はない。



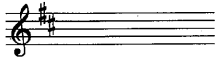
レから始まる二長調に何も調号を付けずに順次進行すると、ファとドのところの長短の関係がおかしくなってしまう。



そこで、ファとドに＃を付けて法則通りの順次進行に修正する。



付いた#がその調の調号になる。



主音に♭が付く変ロ長調は、次の様にミに♭を付ければ音階の順次進行にあてはまる。

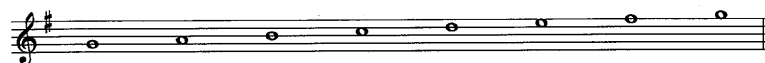
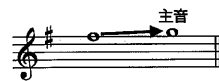


付いた♭がその調の調号になる。

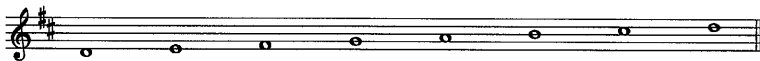
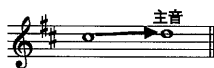


(2) 調号から主音を覚える。

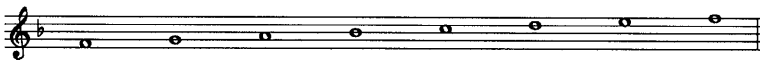
#が調号に付く調は、新しく#が付いた短2度上がその調の主音になる。
#がひとつ付いた楽譜はファに#が付いているので短2度上のソが主音のト長調になる。



＃が二つ付くとドに新しく＃が付くので短2度上のレが主音の二長調になる。



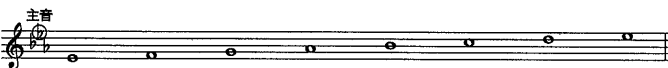
♭が調号に付く調は、まず♭ひとつのヘ長調がファが主音と覚える。



次に、♭が二つ付いた調の主音は、ヘ長調に付いている調号シの♭になり、変口長調となる。



つまり、♭が調号に付く調は、新しく付いた♭の一つ前が主音になる。そうすると、♭が三つ付いている調の主音は、ミの♭になり、変ホ長調になる。



調号から主音の高さが分かれば、曲をどれ位上げ下げすれば子供たちの音域に合った曲になるかが分かるのである。

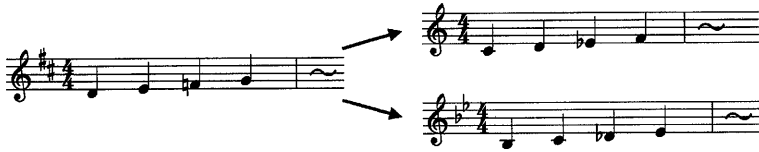
臨時記号

移調する時に、一つも臨時記号がついてない楽譜は、そのまま移調する高さに音符を移動しても問題はないが、臨時記号が付くと、移調する調によっては元の調に付いてる臨時記号を変えなければならない。

二長調をハ長調と変口長調に移調した場合を例に取って説明する。

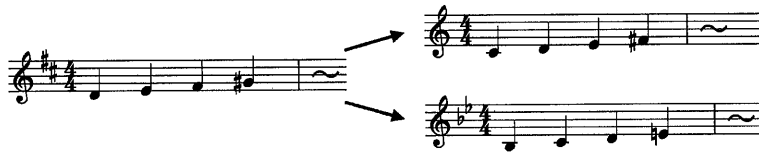
(1) 音階固有音に臨時記号が付いた場合。(調号の所)

二長調の音階固有音#ファにリが付いた場合は、移調したハ長調のミの音はリになる。同じ様に変ロ長調に移調した時はレにリが付く。



(2) 臨時記号が音階固有音でない場合。

二長調のソに#が付いた場合は、ハ長調のファはそのまま#が付くが、変ロ長調のミはリになる。



以上のように、どの調に移調するかによって臨時記号の付き方が変わる場合があるが、その時は前後の度数を良く考えると間違えなくなる。

非和声音と和音付け

メロディーのみの楽譜にどの和音を選べば良いかは、和声音（その和音に含まれる音）と非和声音（和声外音）を知らねばいけない。

非和声音とは経過音、刺繍音（補助音）、倚音、掛留音、先取音、逸音と6つある。

其中で良く使われ覚えて欲しいのは、経過音、刺繍音（補助音）、倚音の3つである。

色々な使われ方があるが、一般的に多く使われているものを分かり易く、ハ長調のIの和音（和声音ドミソ）を例に挙げて説明する。×が非和声音である。

経過音

和声音と和声音を音階的に結ぶ音。半音階もありうる。



刺繍音（補助音）

和声音の上下2度にとる音。連続刺繍音もありえる。



倚音

原則としては強拍に現れ、鋭い不響和音を構成する。和声音の上下2度に置かれる。



この三つの非和声音を含んでいる「春が来た」を例に挙げ、曲の中で非和声音を示すと共に和音付けも説明する。



和音を決める時は非和声音は省く。そうすると、1小節目はミ・ソ、2, 3小節目はド・ミ・ソ、4小節目はレ、5小節目はミ・ソ、6小節目はラ・ド、7小節目はミ・ソとソ・レ、8小節目はドとなる。それぞれの音をハ長調のⅠ（ドミソ）Ⅳ（ファラド）Ⅴ（ソシレ）和音に当てはめると、1, 2, 3小節は「Ⅰ」、4小節は「Ⅴ」、5小節は「Ⅰ」、6小節は「Ⅳ」、7小節は「ⅠとⅤ」、8小節は「Ⅰ」となる。7小節目であるが、曲の終わり方（終止形）はⅤ→Ⅰになることが多い。したがって、レの音を非和声音と考えるのではなく、ソミ・レソにわけ、最後の小節に掛けてⅤ→Ⅰの終止形にする。

和声進行の注意点

2度下行は禁則になるので使用不可である。

例 ハ長調 Ⅴ（ソシレ） →Ⅳ（ファラド）

ト長調 Ⅴ（レファラ） →Ⅳ（ドミソ）

ヘ長調 Ⅴ（ドミソ） →Ⅳ（シレファ）

伴奏形

どのような伴奏の形にするかは、曲の持つ『感じ』を良く考えることである。

元気がある曲は、リズムを縦に取る和音の刻みやオクターブの動きで曲の感じを出す。

益 子 州出男

例 お祭り

お 祭 り

天野 繁 作詞
一宮道子作曲

$\text{♩} = 122$

ワッ シヨイ ワッ シヨイ おまつりだ それいけ それいけ おみこしだ

流れのある曲や八分の六は横に流れる分散和音（和音を一緒に弾くのではなく一つ一つずらせる。）を用いると曲の流れと一致する。

例 おもいでアルバム

おもいでアルバム

増子とし作詞
本多鉄憲作曲

Andante

mf

1. い つ の こ と だ か
2. は る の こ と と で す
3. な つ の こ と と で す
4. あ き の こ と と で す
5. ふ ゆ の こ と と で す
6. ぶ ち ん じゅ う
7. い

おもいだして ご ら ん

以上のように歌詞の意味や音楽の流れを考えて伴奏形を付けないと、曲の意図する音楽から離れてしまうので注意すること。

歌詞の流れから伴奏を作る

歌詞にも当然流れや切れ目があり、最初から最後まで同じ伴奏の形を取ることはない。

てをたたきましようを例に伴奏をつけてみる。

てをたたきましよう

小林純一作詞
作曲者不詳

1.2.3. てをたたきましよう たんたんたん たんたんたん

あしづみましよう たんたんたんたん たんたんたん

わらいましよう あっはっは わらいましよう あっはっは
おこりましよう うんうんうん おこりましよう うんうんうん
なきましよう えんえんえん なきましよう えんえんえん

あっはっは あっはっは ああおもしろい
うんうんうん うんうんうん ああおもしろい
えんえんえん えんえんえん ああおもしろい

最初の2段は1番～3番まで歌詞が同じで歌詞の感じから言って四分音符の刻みが良い。

てをたたきましよう たんたんたん たんたんたん

あしづみましよう たんたんたんたん たんたんたん

3段目から1番「わらいましよう」、2番「おこりましよう」、3番「なきましよう」となるが、わ～らい、お～こり、な～きと最初の言葉が伸びているのと、3拍が「ま」になっている所には、歌詞のニュアンスからアクセントが付かないので、此処には刻みの音が無い方が良い。したがってこの小節は全音符にする。又、この全音符の前にプレスを入れたいので、2段目の最後の小節の4拍目を休符にする。

2小節目と4小節目及び4段目は1番「あっはっは」、2番「うんうんうん」、3番「えんえんえん」となっている。1番の「あっはっは」は、

「っ」を感じ軽く歌いたい。又、2番3番も同じ言葉を繰り返すので、1拍目に重さを感じ、2拍3拍めは軽く歌いたい。そこで、4拍子のリズムの強さは「1拍目→強・2拍目→弱・3拍目→中強・4拍目→弱」となるので、弱拍の2拍目・4拍目は伴奏の音を入れず休符にし軽さを出す。

最後の「ああ、おもしろい」の「ああ」は、感嘆詞なので「あ・あ」と切らず、次の小節の「し」までレガートにし、最後の「ろい」は曲の感じ戻すために四分音符で刻む。

以上のことをまとめ楽譜にすると次のようになる。



前奏の付け方

前奏がない楽譜も多く見られる。其の時は、曲の最後の四小節を前奏に使用する事が多いが、曲の作りがABA'なら良いのが、AA'Bの場合は曲の出だしに違和感を感じる事もある。

前奏を自分で考えるとなると難しく思われがちだが、その曲のメロ

ディーやリズムを活かし、I・V・Iの和音を用いた簡易前奏なら、ピアノの初心者でも前奏を考える事が出来る。

実際多くの幼児曲の前奏はI・V・Iで出来ている。

(朝の歌、おもいでのアльバム、ありさんのおはなし、大きな栗の木の下で、すうじのうた、たきび、なみとかいがら、くだもの列車等)

「まつぼっくり」と「はをみがきましょう」を例に前奏を考えてみる。

「まつぼっくり」

出だしのメロディーをモチーフに



ころころの感じで



「はをみがきましょう」

出だしのメロディーをモチーフに



リズムを活かして



以上の様に、その曲のメロディーや歌詞のイメージ、リズムの特徴を活かせば無理なく前奏を作ることが出来る。

おわりに

今回述べた事は、移調や伴奏を作る上で欠かせない必要な事柄を、初心者にも分かり易く説明してみた。もちろんまだまだ複雑な事例は沢山ある。非和声音しかり、同じ音を使いながら禁則をおかさない和声進行も考えられる。勉強すればするほど幅が倍増していく。

しかし、伴奏に気を取られ子供たちの様子を見ることが出来ないようでは、弾くことが出来ても意味がなくなってしまう。自分の実力に合った伴奏を作ることが大事である。

「当たり前の事が、当たり前の様に出来る。」と言うのは本当に大変な事である。しかし、保育関係の仕事に就いて居る者が「出来ません。」では困りものである。色々と勉強する事が多く、時間も限られると思うが、情操教育に置いて音楽は必要不可欠なものである。勿論、机の上、ピアノの前だけの勉強では良い音楽が作れないのは分かっていると思う。人工的ではない、自然の音にも耳を傾けることが必要である。

子供たちを導く保育士が「音が苦」になってはいけない。子供たちの前で生き生きと音楽を語り、子供たちの表情が笑顔で溢れる場を作れる保育士になって欲しい。

資料図書

幼児教育法シリーズ

音楽リズムー幼児のうた楽譜集 小林 美実 編 東京書籍